

みんなの健康ラジオ

『頭をぶつけた時、CTをとりますか？』

(2022年1月27日放送)

横浜放射線医会

横浜南共済病院

萩原 浩明

頭部の外傷

- 頭皮の損傷
- 頭蓋骨骨折
- 脳震盪
- 脳挫傷
- 頭蓋内血腫
 - 脳内血腫
 - 硬膜下血腫
 - 硬膜外血腫
 - くも膜下出血
- びまん性軸索損傷



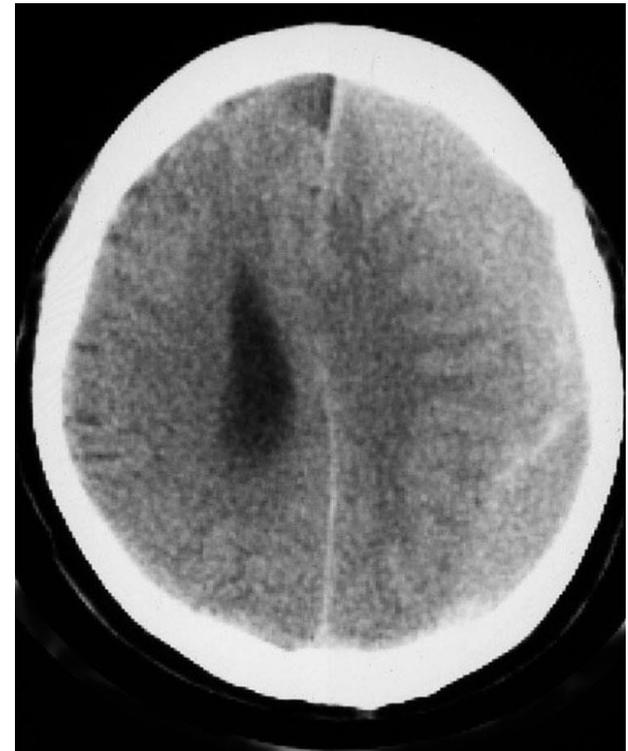
硬膜外血腫の頭部CT

CTを積極的にとる条件

- 意識レベル
 - 意識消失、意識が清明でない
- 年齢が高い
 - 高齢ほど慢性硬膜下血腫を発症しやすい
- 随伴症状がある
 - 頭痛、嘔吐、嘔気、けいれん
- 高エネルギー外傷
 - 3 m以上からの落下、速度のある交通事故

慢性硬膜下血腫

- 頭部外傷後慢性期（通常1～2ヶ月後）に頭部の頭蓋骨の下にある脳を覆っている硬膜と脳との間に血腫が貯まる。
- 血腫が脳を圧迫して頭痛、片麻痺（歩行障害）、精神症状（認知症）など。
- 高齢者に多く発症する。



小児の軽症頭部外傷において、CTはどのような場合に推奨されるか？

- 小児の軽症頭部外傷においては、PECARNによる頭部CT適応基準、CHALICE rule, CATCH ruleなどの基準を使用して頭蓋内損傷のリスクを評価し、リスクが低い場合にはCTを行うべきでない。
- 出典：画像診断ガイドライン2021年版 日本医学放射線学会

まとめ

- 頭をぶつけた時には、頭の中に出血や、脳の損傷を引き起こすことがあります。これらを正しく診断するためにCTは有用ですが、検査の必要性については、主治医の先生とよく相談しましょう。